

テーマ	安全で安心できる暮らしの確保
-----	----------------

事業分野	道路
------	----

事故危険箇所対策検討

目的

幹線道路の安全対策を効率的・効果的に進めるために、事故率の高い箇所として平成15年7月に指定された「事故危険箇所」について、事故削減対策を集中的に実施し、死傷事故を約3割抑止することを目指して調査・対策立案を実施します。

内容

調査は、次の手順で進めます。

1) データの整理

マッチングデータや事故図（発生位置、事故件数（年度別、事故類型別、昼夜別等））道路交通センサス等の整理を行います。

2) 室内分析

交通事故対策に関する文献を参考に、考えられる事故発生要因の整理を机上で行います。

3) 現地踏査

交通安全施設等設置状況調査と併せて、道路・沿道状況や交通状況の把握を行います。

4) 事故要因分析

現地状況と想定した事故発生要因の適合性を確認しながら、新たに考えられる要因を加えて、当該箇所の事故要因の特定を行います。

5) 対策立案

特定された事故要因に対して、現地に即した適切な対策を、ハード・ソフトの両面から立案します。また用地条件や工費等で対策が中長期にわたる場合は、短期対策を併用して、早期の対策効果の発揮に努めます。

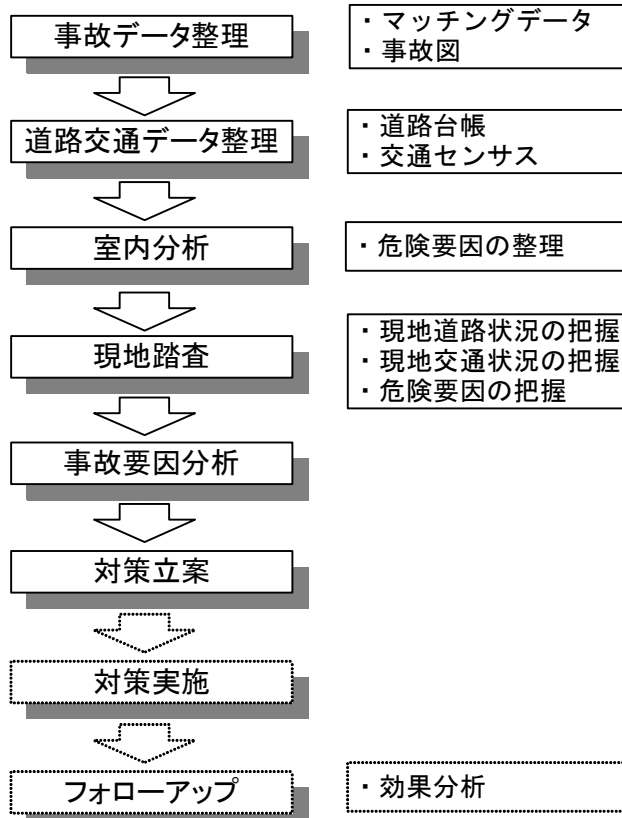


図-1 「事故危険箇所」検討の進め方

日本工営株式会社

お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

技術ポイント

「事故危険箇所」の現地特性や事故要因を的確に捉え、効果的な交通安全対策を立案していく上でのポイントとして、次の3項目を掲げます。

ポイント1：体系的でわかりやすいデータの整理

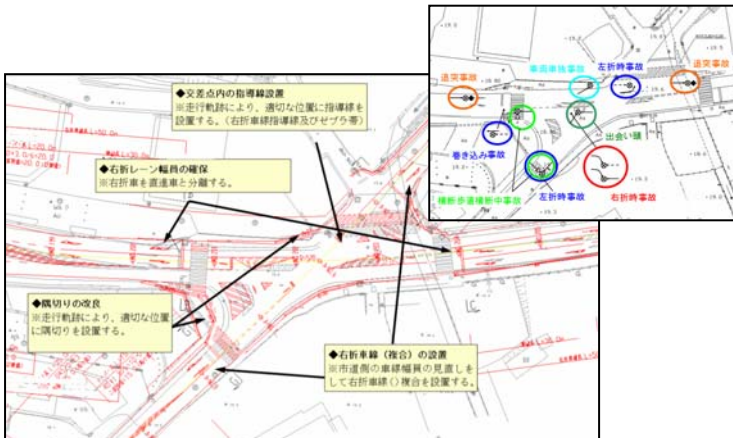
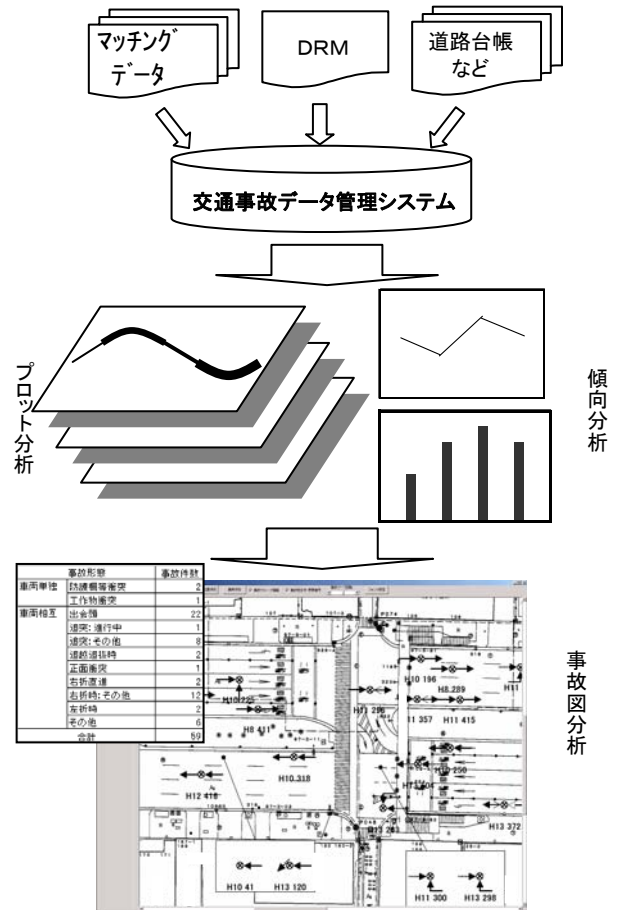
ポイント2：事故要因の確実な特定

ポイント3：現地に適合した効果的な対策立案

当社からの提案

事故データは、事故原票とDRMとのマッチングデータとして整理されていますが、地点毎の分析は手作業による事故図の作成を行わないと、精度の高い要因分析を行うことができません。

またマッチングは非常に手間のかかる作業であるため、①マッチング作業の効率化、②分析作業の容易性、③データ管理の確実性、④他の情報との拡張性（工事履歴、施設管理等）などを考えて、DRMと道路台帳の整合をGIS上で図り、入力や解析、管理を行うことのできる（仮称）交通事故データ管理システムの構築を提案します。更にこのデータから事故要因の分析、対策の立案を行います。



図一 事故要因分析 対策立案

図一 「交通事故データ管理システム」の

補助事業メニュー等

◆交通安全事業統合補助制度

当社の実績

- H15-H17年度 京都府道路交通環境安全推進検討業務
 - H15年度 交通安全対策測量設計（その2）業務
 - H15-H17年度 京都府道路交通環境安全推進検討業務
 - H16-H18年度 道路交通環境安全推進資料作成等業務
- 近畿地方整備局京都国道事務所
四国地方整備局土佐国道事務所
京都市 等
近畿地方整備局福知山河川国道事務所